

ユネスコ無形文化遺産に登録された高山祭の屋台行事とは

国指定年月日 昭和54年2月3日

保護団体 日枝神社氏子山王祭保存会

八幡宮氏子八幡祭保存会

所在地 日枝神社 櫻山八幡宮

時代 江戸時代から

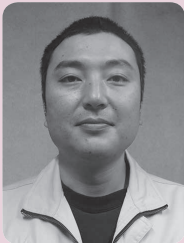
高山祭は、4月14・15日に行われる春の山王祭と、10月9・10日に行われる秋の八幡祭の総称です。春の山王祭は日枝神社の例祭で、安川通りを境にして南側が祭礼区域になります。一方、その北側が祭礼域となる秋の八幡祭は、櫻山八幡宮の例祭で、町を南北に2分して春秋に行われる10数基ずつの華麗な屋台の練行

列は、京都の祇園祭、埼玉の秩父夜祭と並び、日本三大美祭のひとつとして知られています。

春の山王祭は、4月14日と15日に行われます。14日は全屋台が所定の場所に曳き揃えられ、神輿を中心にして祭の行列が町々を練り歩き（御巡幸）、鬨（うたい）や獅子舞などがこれに伴って行われます。その夜は屋台に提灯が灯され、町を曳き廻した後、各屋台蔵への曳き別れを行います。15日は、再び屋台の曳き揃えがあり、神輿還御とともに屋台の曳き別れとなります。

はちの やすあき 宮大工 八野泰明さん

子どもの頃から、修理中の屋台や屋台の部材に囲まれて育ちました。そういった環境から、自然と父と同じ宮大工の道へ進みました。



現在、高山・祭屋台保存技術共同組合の後継者の会である「手わざ会」に所属し10人で活動しています。身近な高山祭の屋台行事がユネスコの無形文化遺産に登録されたことはうれしく思う反面、屋台の修理に携わる者として、一層身が引き締まる思いです。

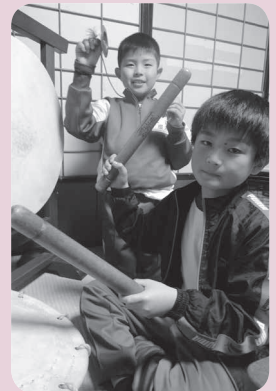
高山祭の屋台だけでなく、全国の山・鉾・屋台の修理にも従事していますが、これら貴重な文化遺産を永く後世に伝えて行くために、そして、受け継いだ“てわざ”を次の世代に手渡すためにも日々精進していきたいと思います。

かきしたはやと 鳩峯車組 柿下隼人さん (写真⑥)

さくらいかいと 櫻井海帆さん (写真⑤)

ぼくたちは屋台の中で、鳩峯車が一番好きです。毎月1回あるお囃子の練習には、1回休みでしたが、ずっと参加しています。今年の宵祭では、屋台に乗って太鼓をたたきました。「高い山」は得意ですが、「道行き」はリズムがゆっくりで少し難しいです。

「高い山」も歌います。歌詞も2番まで覚えてます。笛は今、練習中です。もっと上手になりたいです。



いっぼん ぎみきお 森下町獅子組組長 一本木幹雄さん

この度、「高山祭の屋台行事」がユネスコ無形文化遺産に登録されたことをありがたく思う反面、心が引き締まるのを感じます。

私たち、日枝神社森下町獅子組には、幼稚園から高校生まで70名ほどの児童・生徒をお預かりしています。

高山祭という立派な祭事に関わらせて頂くことに子供たちも喜びを感じています。12月2日の記念セレモニーの行列には、是非参加したいという子どもたちの意見を取り入れ、26名が参加しました。

今回のユネスコ無形文化遺産登録を契機に、高山祭は更に注目されることでしょう。末永く継承していくために、これから子どもたちが積極的に参加できる獅子組にしていきたいです。

